

第 135 回 信州整形外科懇談会

日本整形外科学会認定教育研修講演

(日整会 専門医 1 単位)

講師：国立スポーツ科学センター
所長特別補佐 (パラスポーツ担当)
小松 裕先生

演題：大会現場におけるスポーツドクターの役割と心得

日 時：2025 年 8 月 30 日 (土) 12:20～

会 場：伊那中央病院北棟講堂

(お車でお越しの際は、伊那中央病院敷地内駐車場をご利用ください)

参 加 費：3,000 円 (初期研修医・コメディカル；1,000 円)

(参加には事前の申し込み、参加費振り込みが必要になります。当日は本プログラム送信の際に添付してあるご芳名カードを記載の上、会場入り口にてご提出をお願いいたします。ご芳名カードの提出をもって参加受付とさせていただきます。)

抄録掲載料：1,000 円 (発表者)

単位申請料：1,000 円 (日整会教育研修単位取得希望の場合、事前に単位申し込み、単位料振り込みが必要になります。申し込み時に日整会の会員番号が必要となります。)

単位の認定は当日、会場にてバーコードリーダーで QR コード を読み込みます。日整会新基幹システム JOINTS が開始され、日整会会員カードが廃止となり、QR コード管理となっておりますのでご注意ください。)

発 表：1 例報告 1 題 4 分、その他 5 分、討論 2 分、パソコン単写

抄 録：信州医学雑誌に掲載されます。

当番幹事 伊那中央病院 整形外科

小池 毅

信州大学整形外科懇談会事務局

TEL 0263-37-2659 (直通) FAX 0263-35-8844

共 催 信州整形外科懇談会／科研製薬株式会社

参加方法と発表形式について

信州整形外科懇談会 入力フォーム



<https://forms.gle/E6w43a8RmMadxE7N9>

参加申し込み Google フォーム入力締め切り: **2025 年 8 月 20 日 (水)**

参加方法

Google フォーム <https://forms.gle/E6w43a8RmMadxE7N9> より必要事項を入力後に、金額を確定して事務局よりメールにてお振込みを依頼いたします。指定された金額を下記口座へ**お名前のみ**を御明記の上お振込みください。

八十二銀行 信州大学前支店 普通口座 142543
口座名義: 信州整形外科懇談会事務局

参加費振り込み締め切り: **2025 年 8 月 22 日 (金) 12:00 (正午)**

※手続きの都合上、申し込み、振り込みは早めに設定されています。ご協力をよろしくお願いいたします。

※会費振り込み後、当日不参加となった場合、参加費は返金いたしますが、振込手数料を引いた金額での返金となります。

発表者の方へ

① 発表用 PowerPoint ファイル

ファイル提出用 Google フォルダ内に提出してください。

発表用ファイルの提出締め切り: **2025 年 8 月 25 日 (月)**

※発表用ファイルを共催の科研製薬株式会社で確認するため、**締め切り厳守**でお願いいたします。

② 信州医学雑誌用の抄録(本文 400 文字)

ファイル提出用 Google フォルダ内の「信州医学雑誌用抄録ひな形(400 字)」(Word ファイル)に上書きして信州医学雑誌用の抄録を作成してください。

抄録には演題名、所属、演者名、400 字以内の本文をご記入お願いします。

信州医学雑誌用抄録提出締め切り: **2025 年 8 月 30 日 (土)**

製品紹介 (12:20～12:30)

関節機能改善薬 アルツディスポ関節注 25mg 科研製薬株式会社

脊椎 (12:30～13:55)

座長：樋代 洋平

1. ※DISHを伴う頸髄損傷に対して頸椎後方固定後に頸椎前方固定の追加を要した1例

飯田市立病院 整形外科

○小田多井俊介、林 幸治、小野 寛、畑中大介、伊坪敏郎、伊東秀博

73歳、男性。DISHを伴う頸髄損傷に対して頸椎後方固定を施行したが不安定性が残存したため頸椎前方固定を追加し良好な経過を得た。本症例について文献的考察を交えて報告する。

2. 神経筋原性側弯症(NMS:Neuromuscular scoliosis)と思春期特発性側弯症(AIS:Adolescent idiopathic scoliosis)に対する術前後の矢状面アライメントの比較

諏訪赤十字病院 整形外科¹⁾

長野県立こども病院 整形外科²⁾

信州大学 整形外科³⁾

○近藤裕崇¹⁾、酒井典子²⁾、大場悠己³⁾、高橋 淳³⁾

2023年～2025年に長野県立こども病院で、NMSに対して脊椎後方固定術(pedicle screw fixation: PSF)を施行した20例と、2010年～2023年に信州大学でCobb角70°以上のAISに対してPSFを施行した26例を対象に、術前後の矢状面アライメントを比較検討した。

3. 小規模脊椎手術における閉創直後ドレーン急性大量排液の原因と対策の検討

信州大学 整形外科

○伊藤慎太郎、池上章太、中西真也、泉水康洋、笹尾真司、三村哲彦、福澤拓馬、黒河内大輔、大場悠己、上原将志、高橋 淳

脊椎手術創閉鎖時の陰圧ドレーン開放直後、術中出血量を超える血性排液を生じた症例を9例経験した。陰圧により骨面・硬膜外静脈叢からの出血を誘発したと考えられた。文献をふまえ対策について考察した。

4. *多発横突起骨折を伴う腰椎破裂骨折に対する固定範囲について過小評価してしまった1例

長野赤十字病院 整形外科

○稲垣智也、小清水宏行

32歳男性。倒木により、T12-L5 左横突起骨折と L4 破裂骨折を受傷した。1 above-1 below で後方固定術を行ったが、術後半年で腰椎後側弯を呈し、腰痛のため再手術となった1例を報告する。

5. 上肢挙上不能を主訴に肩外来受診した頸椎疾患患者の検討

北アルプス医療センターあづみ病院 整形外科

○渡邊 柊、向山啓二郎、畑 幸彦、太田浩史、中村恒一、狩野修治、磯部文洋、百瀬陽弘、政田啓輔、秋元郁恵

「肩が挙がらない」ことを主訴とする疾患の中に頸椎疾患が潜むことがある。頸椎と肩関節疾患を正確に診断することは治療方針決定に重要である。今回当院での症例をもとに過去の報告と比較考察をおこなった。

6. 小児側弯症に対する前方手術後の再変形に対する、脊椎後方矯正固定の手術成績 ～安全性と成績～

信州大学 整形外科

○三宅海斗、大場悠己、池上章太、上原将志、黒河内大輔、福澤拓馬、三村哲彦、笹尾真司、高橋 淳

小児側弯症患者の前方固定術後の再増悪に対し同部位から再度手術を試みる場合、重要臓器損傷の危険性がある。今回我々は前方手術部位に対して操作を行わず、後方矯正固定術を行った症例を4例経験したので報告する。

7. *化膿性脊椎炎に対して全内視鏡手術を行った1例

国保依田窪病院 整形外科

○井上慶太、滝沢 崇、牧山文亮、野口武昭、三澤弘道

当院では2025年4月より局所麻酔下での全内視鏡手術（FESS法）を導入した。今回、化膿性脊椎炎に対してFESS法にて洗浄でデブリドマンを施行したため、その詳細につき報告する。

8. 重症心身障害児に対する脊椎側弯症手術における手術部位感染の検討

長野県立こども病院 整形外科¹⁾

信州大学 整形外科²⁾

○松原慎也¹⁾、酒井典子¹⁾、大場悠己²⁾、高橋 淳²⁾

当院で2022年から2025年に施行した重症心身障害児に対する側弯症手術26例中3例で手術部位感染を認めた。本手術後の手術部位感染のリスク因子について後ろ向きに検討した。

9. 腰椎脊髓造影検査時の complete block 症例の特徴および腰椎除圧術に及ぼす影響 (第2報)

国保依田窪病院 整形外科¹⁾

信州大学医学部附属病院 リハビリテーション部²⁾

○野口武昭¹⁾、滝沢 崇¹⁾、池上章太²⁾、牧山文亮¹⁾、井上慶太¹⁾、三澤弘道¹⁾

134 回信州整形外科懇談会にて、脊髓造影検査時に complete block を認めた症例の特徴につき報告した。今回は症例数を増やし、腰椎除圧手術に及ぼす影響、術後1年でのアウトカムを比較考察したので報告する。

10. 選択的脊髄後根切断術 (SDR) の有効性と当院での手術成績

長野県立こども病院 整形外科

○香山竜平、酒井典子

選択的脊髄後根切断術 (Selective Dorsal Rhizotomy : SDR) は脳性麻痺などに伴う痙縮に対する唯一の根治的外科治療である。当院で SDR を導入して約1年半での手術成績と代表症例1例について報告する。

腫瘍 (13 : 55～14 : 35)

座長：高沢 彰

11. 手術加療を行った神経線維腫症 1 型患者の治療成績 (悪性末梢神経鞘腫瘍、atypical neurofibromatous neoplasm of uncertain biological potential; ANNBP を含む)

信州大学 整形外科

○神崎恭輔、岡本正則、青木 薫、鬼頭宗久、田中厚誌、高沢 彰、樽田大輝、久保卓也、高橋 淳

2017 年に新たに提唱された良悪性中間型腫瘍である ANNBP の1例を経験した。2011 年から2023 年に手術加療を行った神経線維腫症 1 型患者全例の臨床経過、画像所見、病理組織所見を比較検討し、その特徴を明らかにする。

12. ＊孤立性骨嚢腫として初期治療した嚢腫様変化を伴う線維性骨異形成の1例

信州上田医療センター 整形外科¹⁾

信州大学 整形外科²⁾

○大崎史明¹⁾、吉村康夫¹⁾、中井亜美¹⁾、奥田 翔¹⁾、赤羽 努¹⁾、高沢 彰²⁾、岡本正則²⁾

15 歳女子。右大腿骨孤立性骨嚢腫病的骨折の診断で掻爬、人工骨移植、CHS 固定を行い、再燃に対して中空ピン留置を追加した。この時の病理で線維性骨異形成の診断となり、再手術を行った症例について検討した。

13. *右上腕骨近位端軟骨性腫瘍(骨軟骨腫または二次性末梢性異型軟骨性腫瘍)に対して Abbott & Lucas approach が有用だった 1 例

信州大学 整形外科

○久保卓也、岡本正則、青木 薫、鬼頭宗久、田中厚誌、高沢 彰、樽田大輝、
神崎恭輔、高橋 淳

巨大な上腕骨近位端軟骨性腫瘍に対して Abbott & Lucas approach にて腫瘍を切除することで、術後の機能障害を回避できた 1 例を経験した。同展開法の有用性について報告する。

14. *癌治療関連骨減少症 (CTIBL) と最終診断した大腿骨頸部骨折の 1 例

信州上田医療センター 整形外科

○奥田 翔、吉村康夫、中井亜美、大崎史明、赤羽 努

68 歳男性。前立腺癌骨転移に対する骨修飾薬投与中断後、大腿骨頸部骨折を発症した。病的骨折も考え切除人工骨頭置換を施行したが、骨折部に腫瘍は認めなかった。本症例の経過と対応につき考察した。

15. 小児骨髄炎の画像所見の特徴

長野市民病院 臨床研修センター¹⁾

長野市民病院 整形外科²⁾

○丸田さくら¹⁾、新井秀希²⁾、清水翔太²⁾、柳澤架帆²⁾、日野雅仁²⁾、橋本 瞬²⁾、
藍葉宗一郎²⁾、藤澤多佳子²⁾、中村 功²⁾

2012 年～2025 年に長野市民病院で治療した小児骨髄炎 6 例(6 歳～13 歳)の造影 MRI 所見と病理組織所見の対比および鑑別を要する良性腫瘍・腫瘍類似疾患との比較を行ったので報告する。

————— <休憩 20 分> —————

上肢 (14 : 55～15 : 30)

座長：上甲 巖雄

16. Bouchard 結節に対する人工関節置換術の成績

北アルプス医療センターあづみ病院 整形外科

○百瀬陽弘、中村恒一、磯部文洋、渡邊 柊、秋元郁恵、政田啓輔、狩野修治、
向山啓二郎、太田浩史、畑 幸彦

Bouchard 結節に対しシリコンインプラントを用いた人工関節置換術を行っている。2016 年以降に手術を行い、1 年以上の経過観察が可能であった症例は 11 例 14 指であった。その治療成績について後ろ向きに検討したので報告する。

17. ＊免疫抑制患者に生じた非結核性抗酸菌による肘頭滑液包炎の1例

信州大学 整形外科

○吉田崇哲、林 正徳、岩川紘子、宮岡俊輔、北村 陽、阿部雪穂、中村駿介、
高橋 淳

82歳、男性。マクロライド耐性 *M. abscessus* による肘頭滑液包炎を経験した。外科的治療と多剤併用療法を行ったが、難治例であった。免疫抑制下では治療選択や予後予測に慎重な判断を要する。文献的考察を加え報告する。

18. 尺骨茎状突起による尺側手根伸筋腱損傷の治療経験

北アルプス医療センターあづみ病院 整形外科

○政田啓輔、中村恒一、磯部文洋、太田浩史、向山啓二郎、狩野修治、百瀬陽弘、
秋元郁恵、渡邊 柊、畑 幸彦

尺骨茎状突起による機械的刺激の影響と考えられる尺側手根伸筋腱の完全あるいは部分的な断裂を生じた5例を経験し、全例に手術を行った。当院における治療経験について文献的考察を交えて報告する。

19. ＊リバーズ型人工肩関節置換術後に術後脱臼を認め再手術を要した1例

岡谷市民病院 整形外科

○久米田慶裕、上甲巖雄、内山茂晴、田中 学、春日和夫

リバーズ型人工肩関節置換術(RSA)の合併症の一つに人工関節周囲脱臼が挙げられる。当院で左肩脱臼骨折に対してRSAを施行し、術後再脱臼を複数回認め、再手術を要した1例を報告する。

外傷 (15:30～16:10)

座長：前角 悠介

20. ＊脛骨プラトー骨折に外側半月板の骨折部陥頓を伴った1例

飯田市立病院 整形外科

○小野 覚、畑中大介、伊坪敏郎、林 幸治、小田多井俊介、伊東秀博

58歳女性。Schatzker type IVの骨折に伴い、外側半月板が骨折部に陥頓していた。脛骨プラトー骨折の一定数に半月板損傷を伴うことは報告されているが、処置を必要とする症例は少ない。本症例について考察を交えて報告する。

21. 骨盤輪骨折に対する後方 rescue screw の安全性の検討

信州大学 整形外科

○岩本将弥、宮岡俊輔、笹尾真司、前角悠介、高橋 淳

当院において、骨盤輪骨折に対して受傷24時間以内に後方 rescue screw 固定を行った症例と待機的に固定を行った症例の経皮的経腸骨経仙骨 screw 逸脱率を比較報告する。

22. ＊マムシ咬傷により緊急 fasciotomy を要した 1 例

長野赤十字病院 整形外科

○石原典子、小清水宏行、加藤三朗、宮津 優、長谷川弘晃、児玉敏弘、渕野孝明、
稲垣智也、小西正晃

マムシ咬傷は、年間約 1000 人程度の被害報告があるが、その症状は様々である。今回我々は、マムシ咬傷後早期に腫脹疼痛の増悪を認め、コンパートメント症候群に進展、早期減張切開術にて良好な回復を得られたので報告する。

23. ＊後十字靱帯脛骨付着部裂離骨折に対して観血的整復固定術を施行した 1 例

諏訪赤十字病院 整形外科

○古泉啓介、岩浅智哉、近藤裕崇、山口浩平、中川浩之

症例は 11 歳男児、スケート中に膝屈曲位で壁に強打し受傷。CT、MRI にて後十字靱帯脛骨付着部裂離骨折と診断し、手術を施行した。比較的珍しく、見落としやすい骨折形であり経過を報告する。

24. 骨盤輪骨折に対する当院の治療成績の変遷

諏訪赤十字病院 整形外科¹⁾

信州大学 整形外科²⁾

○近藤裕崇¹⁾、前角悠介²⁾、宮岡俊輔²⁾、笹尾真司²⁾、高橋淳²⁾

信州大学病院は、2018 年 7 月に外傷チームを設立し、骨盤骨折に対する治療戦略を変えた。過去 12 年間に骨盤骨折と診断された 183 例を対象とし、治療戦略変更前後の離床開始日、入院期間、退院時歩行能力を比較検討した。

下肢 (16 : 10～17 : 10)

座長：原 一生

25. 股関節症に合併した梨状筋症候群に対して THA と同時に神経剥離を行い症状が改善した 2 症例

北アルプス医療センターあづみ病院 整形外科

○秋元 郁恵、畑 幸彦、太田浩史、石垣範雄、中村恒一、向山啓二郎、
狩野修治、磯部文洋、百瀬陽弘、政田啓輔、渡邊 柊

梨状筋症候群に対する治療は保存加療が一般的だが、手術で加療した報告は少ない。梨状筋症候群と診断し、合併した股関節症に対して THA を行う際に坐骨神経剥離を行い症状が改善した 2 症例について報告する。

26. Cemented Socket の短中期成績-ソケット荷重部塊状骨移植骨占拠率は成績に影響する のか-

南長野医療センター篠ノ井総合病院 整形外科

○野村博紀、臼田 悠、小田切優也、石垣範雄、外立裕之

Cemented Socket の短中期成績を塊状骨移植骨占拠率に注目しながら評価、考察する。

27. 内反膝に対する TKA 前後アライメント評価

南長野医療センター篠ノ井総合病院 整形外科

○野村博紀、臼田 悠、小田切優也、石垣範雄、外立裕之

セメント TKA の短中期成績を術前後のアライメントに注目しながら評価、考察する。

28. *特発性膝関節血症を合併した変形性膝関節症に対し、術前血管内治療を併用して人工膝関節置換術を施行した 1 例

信州大学 整形外科

○杠 華絵、熊木大輝、小山勇介、前角悠介、小山 傑、下平浩揮、堀内博志、
高橋 淳

80 歳男性。頻回の膝関節内出血を合併した変形性膝関節症に対し、血管内治療を行った後人工膝関節置換術を施行した。このような症例に対する術前血管内治療の有効性と他の治療方法について文献的考察を述べる。

29. Curved Short Stem としての Fitmore 人工股関節の短期成績

丸の内病院 整形外科

○小岩 海、縄田昌司、天正恵治、前田 隆

Fitmore は Khanuja の Short Stem 分類 (2014) で Type 4 に分類される Curved Short Stem である。我々は、Medio-Lateral fit と骨頭中心の再現を両立できると考えられた症例のみに限定して使用してきた。その短期成績を振り返ることでこの stem の適切な使用条件を検討した。

30. *大腿骨過前捻による膝の内旋位を呈した変形性股関節症の 1 例

諏訪赤十字病院 整形外科

○山口浩平、岩浅智哉、近藤裕崇、古泉啓介、中川浩之

寛骨臼形成不全を背景とした大腿骨過前捻症例では大腿骨内旋位となる傾向があるとされる。大腿骨前捻角 65° の過前捻に膝の内旋位による歩きづらさを伴った変形性股関節症に対して THA を施行した 1 例について報告する。

31. 前十字靱帯再建術に前外側靱帯再建を追加する必要性はあるか？

丸の内病院 整形外科¹⁾

信州大学 整形外科²⁾

○天正恵治¹⁾、小岩 海¹⁾、前田 隆¹⁾、縄田昌司¹⁾、熊木大輝²⁾、小山 傑²⁾、
下平浩揮²⁾、高橋 淳²⁾

近年欧米を中心として前十字靱帯再建の術後成績不良因子を有する症例に対して、前外側靱帯再建を併用する報告が増加している。過去の自験例からその必要性に関して検討を行った。

＜総会、休憩 20 分＞

教育研修講演

(17:30～18:30)

講師：小松 裕 先生

国立スポーツ科学センター 所長特別補佐（パラスポーツ担当）

演 題： 大会現場におけるスポーツドクターの役割と心得

座 長 高橋 淳 先生

信州大学医学部 運動機能学教室 教授

認定単位： 日本整形外科学会専門医資格継続 1 単位
（[2] 外傷性疾患（スポーツ障害を含む）
[13] リハビリテーション（理学療法，義肢装具を含む）
または日整会認定スポーツ医単位(S)）

事前に単位申し込み、単位料振り込みが必要になります。当日の対応はいたしかねます。

※単位の認定は当日、会場にてバーコードリーダーで QR コードを読み込みます。

「日整会 JOINTS」スマホアプリをダウンロードし QR コードを表示するか、JOINTS マイページより QR コードをダウンロードし、印刷して持参してください。

交通のご案内



駐車場のご案内

伊那中央病院敷地内に 500 台の無料駐車場があります。
お車でお越しの際は、敷地内駐車場をご利用ください。

会場のご案内（北棟 2 階 北棟講堂）

